

KATSUニュース

14. 1. 26 新

NO. 10号

発行人 吉井 亜弥 発行元 劇団いこら 吉備町庄684-32 (栗原省宅)

祝! KATSUニュース10号発行

平成13年11月11日に0号を発行してから、今日で10号をむかえる事が出来ました。皆様ありがとうございます。これからもご愛読お願いいたします。

狂言師 安東伸元先生 来和

1月24日(木) 午後二時より劇団いこらの稽古場にて狂言の(稽古脚本でいえば『鞆猿』)稽古がありました。出席者は栗生香林、千永実、嶋田堅二、有田和美、和歌真喜子、吉井亜弥の6人(もちろん栗原も)。この日は、先生のお迎えからハプニングがあったり、装置、照明の打ち合わせがあったりでばたばたの一日でした。(一緒に装置の板坂先生、照明の小谷先生も来られました。)

さて、いざ稽古に入ろうも、勝1役の栗生千永実は風邪、新太夫の和歌真喜子も声が出ない。宗阿弥役の池嶋は欠席。と、のっけからやる気の減退になりそうな雰囲気でした。ですが千永実ちゃんは「どんなことがあっても稽古に来い!」といわれていたので、一週間近く学校を休んだ体にもかかわらず、稽古にやってきました。えらい!そして最後までへこたれることなく懸命に稽古をやり通しました。安東先生は「千永実ちゃんは、なかなかすじがいい」とおほめの言葉を下さりました。さらに「この先つらい事があっても、この鞆猿の舞台をやった事が自身につながり、必ず乗り越えられる」と激励の言葉も下さりました。千永実ちゃんよかったねー。本当にいい一日でした。

そこで皆さんにも一言

この『KATSU』の稽古の中でもしんどい事、つらい事は一杯あると思います。そして自分が思うほど、自分は上手くしゃべれない、踊れない事を自覚する『壁』にぶつかる事でしょう。その時は、悩まず、何も考えず、無心にやる事をお勧めします。そうすれば必ずその気持ちは人に伝わるし、感動を与える事が出来るでしょう。演劇の稽古とは単に歌ったり、演じたり踊ったりするだけで無く、自分自身との境界との戦いの場でもあります。決して楽しい事ばかりではないのです。早くもその壁にぶつかっている人が何人かいるようです。考えて下さい。己(おのれ=自分自身)ほど醜いものはいないし、美しく、強いものもないという事です。

衣裳の法月さんからみなさんへ

今回の、衣裳デザインは、昔の日本の美しい着物地を使って進めています。そろそろ全体のかたちも決まってきました。基本になるTシャツをそれぞれ着て、上に役柄をあらわす衣装を着ます。が、今稽古で着ているものより薄着になります。今から慣れておくように、体にフィットしたものを着てお稽古しましょう。

例:長袖Tシャツ、長袖セーター、カーディガン、トレーナー(薄地)

袖の長すぎる服や、フリース、フード(帽子)のついたものは避けましょう。

寒い時にフィットするものを重ね着しましょう。

生地を探しています

- 1、銀色のおび 女物 (丸帯でも、名古屋おびでも可)
- 2、大きめの格子(千エック)の着物地。または木綿の格子のふとん柄地